

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第36回 初めての家族旅行…そして、もしかしたら最後の家族旅行

もしかしたら、家族で行ける最後の旅行かもしれません。それでも、参加してよいですか？

そんなお母さまの言葉に、2つ返事で大丈夫です！と、答えたものの、本当は不安でいっぱいでした。

恒例の八ヶ岳自然教室。5月から10月まで夏の間、児童養護施設の子どもたちを連れて、八ヶ岳で1泊2日のキャンプを開催するようになって、今年で2年目です。今回は、縁あって、病気のお子さんたちを招待することになりました。

病児のご家族を紹介してくれたのは、「リラのいえ」というNPO法人です。

世の中には生まれてから、ずっと病院で暮らさなければならぬ子どもたちがいます。手術や入院を何度も繰り返し、短い生涯を閉じてしまう子どももいます。親は、とまどいながらも、そんなわが子を、全身で愛します。

子ども病院を訪問したとき、不思議な感覚にとらわれたことがあります。子どもに付き添う、両親の愛情に満ちた表情。見つめ返す子ども。病児をかかえるご家族が大変なのはもちろんなのですが、そこには愛が満ち溢れていました。普段、親の愛を受け取ることができない児童養護施設の子どもたちに接しているためか、誤解を恐れずにいえば、親から無限の愛を注がれている病児たちを、羨ましいとさえ、思ったほどです。

一方で、病児の兄弟たちの置かれた環境は、少し難しいものがあります。集中治療室などに入院すると、兄弟は病棟へは入れません。他の子どもに感染させてしまう可能性があるからです。パパもママも、病児の生命を助けようと必死。そんな両親を見ていると、甘えたい盛りの年ごろなのに、ワガママも言わず、じっと我慢するのが当たり前と思ってしまうのです。

リラのいえは、そういう兄弟を一時的に預かる活動をしています。

夏休みは海に行きたい！
山を駆け回りたい！
ディズニーランドで遊びたい！
そんな普通の楽しみを、口にすることさえできない子どもたちを、ぜひ八ヶ岳に連れて行ってあげてください。

そんな風にリクエストをいただいて実現した、今回の自然教室です。参加は2家族。どちらも3人兄弟。A家は、一番上のお兄ちゃんが、病児です。O家は、反対に一番下の2歳のお兄さんが、病児という家族構成です。

ところが出発前日に、O家から、お子さんの症状が重く、いつ救急車を呼ぶことになるか分からない、それでもよい

ですか、と問い合わせが…。お医者様からは、最後の家族旅行になるかもしれないから、行っておいでと言われたとのこと。医学的知識も、保育の専門知識もない、私たちが引き受けてもよいのだろうかという一抹の不安はありましたが、「ご両親さえよければ、かまいません！」とふたつ返事。どんなことになっても、ご両親をサポートしようと、覚悟を決めてのスタートです。

兄弟たちは、どこか児童養護施設の子どもたちと似ている。それが、第一印象でした。過剰に感情を表現したり、相手の気持ちを試すようなことを言ってみる。または、自分のことより他人を思いやる、優等生すぎるふるまい。

そして、それも無理からぬことだということも、分かりました。病児を家庭で育てるのは、想像を超えて大変なことだからです。

パパもママも、365日24時間、子どものケアをしなければなりません。8時間おきに栄養剤を点滴する。嘔吐が始まると、私たちには何もできないので、救急車を呼ぶしかないんですよ、自然体で話すO家のママ。

どうして、うちの子が…。最初は、どうしていいのか、まったく分かりませんでしたと、プロの看護師さんのように慣れた手つきで、点滴の器具を消毒しながら、当時の苦労を語ってくれました。

家族一緒に、泊りがけのお出かけをするのは、初めてなんですとA家のママ。引きつけをおこさないように、抱っこした子どもの微妙な体温を感じながら、その都度木陰や車の中で休まなければなりません。

わがママも言わず、「いい子」にしている兄弟を、思いやり楽しませよう！普段とは異なるコンセプトで、八ヶ岳自然教室は始まりました。

まずは、いつものイタリアンレストランに集合。自己紹介をしたり、好きな食べ物を聞いたりしながら、まずは子どもたちと仲良しに。それから、秘密の池に行き、虫やカエル探しです。

どちらの家族も、3人兄弟なので、大人2人に子どもが3人。普段なら大人の手が足



はじめての家族旅行

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

りないので、自由に子どもを遊ばせることができないのですが、今日は戸沢財団とリラのいえのサポートがあります。

はじめての外遊び。はじめて触る自然の草花。はじめて触れる冷たい湧き水。トンボを追いかけたり、沢の中にジャボンと飛び込んだり。兄弟児たちは、パパやママと一緒に、思いきりはしゃいでいました。

残念ながら、夕方から雨になってしまったので、急いで山荘に戻ります。部屋は2つしかないのに、2家族は同じ部屋。お布団を敷くお手伝いをしているのかと思いきや、子どもたちは全力で枕投げ。Aちゃん兄弟とOちゃん兄弟は、初対面だったのですが、水遊びを通してすっかり、仲良くなったようです。

今日は、思いっきり羽目を外して、我がまま言ってもいいからね。

2日目も、残念ながら雨。八ヶ岳の山荘は、標高1000メートル。上着を着ても、寒いぐらいです。クーラーがなくても、涼しいなんてびっくりと、パパやママも喜んでくれるのが、嬉しい！

今日は、牧場に行って乳搾りに挑戦です。普段なら、病気のお兄ちゃんと、まだ2歳の弟の面倒で、パパとママは手いっぱい。いつものように(?)一人で乳搾りに挑戦しようとするAちゃんに、パパが手を差し出します。「一緒にやろう」

つづいて、皆でバードコールづくりです。好きな小枝を使って、ネジを差し込んで、あら不思議、鳥の鳴き声そっくりの音が鳴るではありませんか。バードウォッチングに使うと聞き、早速子どもたちは木影から、小鳥たちを探して走り回ります。これで夏休みの宿題ができた、ママたちも大喜び。

と、ここまでは順調だったのですが、A家の病児の体温が上がってしまい、渋滞に巻き込まれないうちに、早く帰らなければならなくなってしまいました。それでもAちゃんのために、パパと一緒にアイスクリームづくりに参加。ついさっき絞ったジャージー牛と、ホルスタイン



楽しい思い出つくれたね

牛のミルクを混ぜ、ボールで冷やしながらかき混ぜます。かき混ぜる力が強いほど、美味しいアイスクリームが出来上がるので、Aちゃんパパが大活躍。パパを一人占めして、一緒につくったアイスクリームの味。きっとAちゃんは、大人になっても忘れないよね。

これが最後の家族旅行かも、とおっしゃっていたO家は、帰り際、来年も来られるように頑張りますと、おっしゃってくださいました。

来年もくる。
それは、1年後も末っ子のOちゃんの命が、続いているということの意味しています。
必ず、来年もきます。

がんばって。
ママ、パパ、そして子どもたち。
そして来年もまた、会いましょう！

今回、お呼びしたのは、たったの2家族。病児の看病をしてあげることはいけません。私たちにできることは、何もないに等しいのだけど、そんな家族たちがいることを皆さんにも、知ってもらいたい。そして、当たり前前の幸せに感謝しなければならぬという思いを強くした2日間でした。

好評
発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著(中経出版)

1,300円+税

アタマのいい人と勉強のできる人は違います。勉強のできる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。
がんばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指たくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

合格率10%以下の難関資格にストレートで合格した驚異的なメソッド公開!
資格試験、競争率が高すぎる試験、合格が難しい試験も必ず受かる!